

土佐の津波対策「サイン／／コ・サイン」

PREVENTION AGAINST TSUNAMI IN TOSA "SIGN//COSIGN"

酒井浩一

高知県総務部危機管理課 (〒780-8570 高知市丸ノ内1丁目2番20号)

Kochi Prefecture believes that in the event of earthquake ,the most important thing is to prepare for the arrival of tsunami there after. The keywords are "sign//co.sign" .

Key Words: sign,cosign

1. 「逃げる」と「防ぐ」

平成14年4月17日中央防災会議東南海、南海地震等に関する専門調査会が公表した被害想定において最も大きな津波被害が予想されている高知県、過去の南海地震でも必ず大きな津波被害を受けている高知県、高知県にとって、津波対策は地震防災対策の最重点課題です。

この津波対策にどう取り組むか、平成10年4月に県と沿岸市町村で「高知県南海地震津波防災検討会」を設置し、専門家からも意見をいただき、徹底的に議論をしました。

そこで出した答えは、次のとおりです。

○津波対策は「逃げる」対策と「防ぐ」対策で構成
○生命の安全確保の確実性が高い「逃げる」対策を優先

○「防ぐ」対策は「逃げる」対策を補完

津波対策は、浸水の恐れがある地域にいる限り、「逃げる」か「防ぐ」しかありません。

生命の安全確保を図るためには、「逃げる」対策が確実です。

というのは、本県の沿岸線は約700kmもありこの沿岸線には防潮施設が累々と築かれていますがこうした施設を津波を防ぎ、さらに、津波の前の揺れに耐えられるようにする費用も時間もないというのが現状です。

一方、津波から逃げることであれば少なくとも命は助かります。

そのため、「逃げる」対策を基軸に津波対策に取り組むことにしました。

といっても、防ぐ対策を全て放棄した訳ではありません。

例えば、水門や陸こうを閉鎖することにより、津波の浸水を少しでも防げば、「逃げる」ための時間を稼げます。

こうした「逃げる」対策を補う「防ぐ」対策は取

り組むこととしました。

2. 「逃げる」＝「サイン」

「逃げる」対策は、次の3点が重要となります。

- 危険性を知る
- 避難場所を知る
- 津波発生を知る

「危険性を知る」とは、例えば、地震発生後、いつ、どこに、どのくらいの津波が来るのか分かるハザードマップの作成となります。

また、「避難場所を知る」とは、避難場所を示す標識の設置となり、「津波発生を知る」とは、津波に関する情報を伝達することとなります。

こうした取り組みは、全て何らかの「サイン」を整備することになります。

このような「サイン」に関連した避難路の整備や学習や訓練も「サイン」に含めることとすれば、「逃げる」対策は「サイン」を整備することに他なりません。

3. 「防ぐ」＝「コ・サイン」

一方、「防ぐ」対策は、「逃げる」対策を補うこととしました。

補うは、「CO」で表すことができるので、「サイン」(＝「逃げる」)を補う「防ぐ」対策は、「コ・サイン」と表すことにしました。

4. 津波対策は「サイン／／コ・サイン」

この「サイン」と「コ・サイン」は同時並行で実施して効果が発揮できるものですので、津波対策全体を「サイン／／コ・サイン」と表すことにしました。

こうした表現をしたのは、南海地震に関する津波対策は、10年、20年と息の長い取り組みになる

可能性があるため、継続して実施していくためには、津波対策を一言で表すキーワードが必要と考えたからです。

5. 具体的な「サイン／／コ・サイン」

それでは、具体的なサインとコ・サインについて説明します。

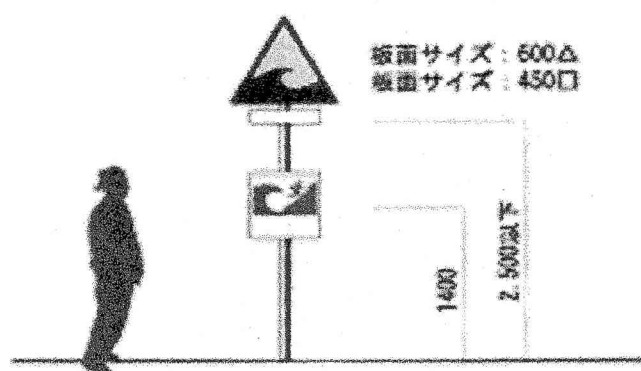
(1) サイン

a) 危険性を知るサイン

津波について学習・啓発機能と迅速かつ安全に避難するための知識の伝達を目的とするサインです。

具体的には、注意・啓発の看板、過去の痕跡の明示、ハザードマップなどです。

〔危険性を知るサインのイメージ〕

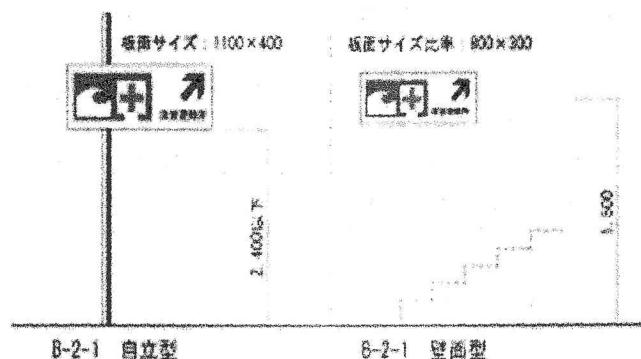


b) 避難場所を知るサイン

避難場所までたどり着くことを目的とするサインです。

具体的には、避難場所を示す標識や誘導標識となります。

〔避難場所を知るサインのイメージ〕



c) 津波発生を知るサイン

津波の発生を住民に一刻も早く知らせることを目的とするサインです。

具体的には、防災行政無線や可変道路情報板などです。

〔津波発生を知るサインのイメージ〕



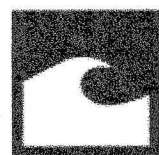
d) デザインの統一

高知県は、東西に長く、沿岸線は700kmもあります。

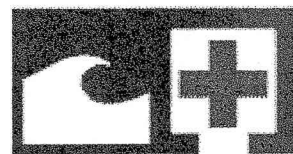
高知市に在住の方が必ずしも、高知市で津波に遭うとは限りません。室戸市や土佐清水市で津波に遭うかもしれません。

そのため、どこで津波に遭ってもいいように、サインのデザインを平成11年度統一しました。

〔サインデザイン例〕



【津波】

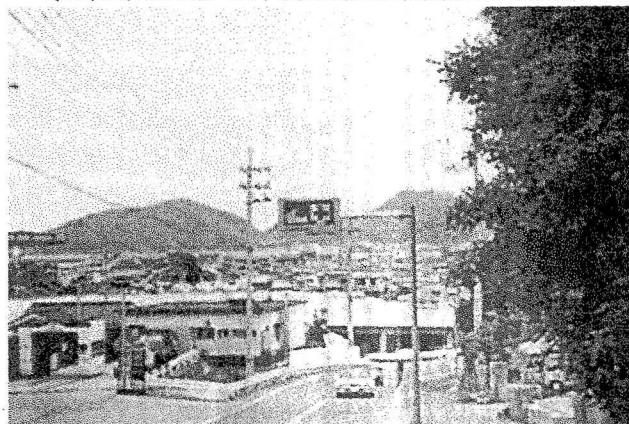


【津波避難場所】

「津波」のサインについては、平成15年度に、和歌山県、三重県、徳島県、高知県の4県で協議し、統一デザインとして使用していくこととしました。

高知県においては、津波避難場所を示すサインは、次々と整備が進んでいます。

〔土佐市における津波避難場所標識の整備例〕



(2) コ・サイン

津波を「防ぐ」コ・サインは、現在、次の事業に取り組んでいます。

a) 須崎津波防波堤

b) 高知港津波高潮防災ステーション

a) 須崎港津波防波堤

本県で最も津波の危険度が高い須崎市において、須崎港の湾口に平成4年度から着工しています。

総延長1420m、総事業費約450億円、平成20年代の早期完成を目指しています。

〔須崎港〕



b) 高知港津波高潮防災ステーション

高知市高知港において、主要な水門や陸こうを地震発生時に遠隔操作で閉鎖する事業に取り組んでいます。

〔高知港〕



財政的にも厳しい状況の下、こうしたハード整備を今後どのように進めていくかが現在課題となっています。この課題については、「南海地震対策推進本部」という全庁的な組織で議論をすることになっています。

(3) 今後の取り組み

市町村が津波避難対策を進める上での基本的な考え方や津波避難計画の作成方法を明らかにした「市町村津波避難計画の策定指針」を平成15年2月に作成しました。

この指針は、「サイン／／コ・サイン」の考え方を踏まえ、市町村が住民と協力して、ソフトとハードを総合的に整備するための計画づくりの参考になることを目的に作成しています。

市町村には、この指針を拠り所とし、平成15年度から平成19年度の5ヶ年間で全ての地域の避難計画を作成して頂くことにしています。

作成が必要とされる地域は約300もあります。

計画は単年度で作成できない場合もあり、継続して取り組んでいく必要があります。

そのため、津波避難計画台帳を作成することになりました。

まずは、計画を作成する地域を設定します。

次に、地域ごとの取り組みの状況が一目で分かる進捗状況図を作成し、県と市町村で共有することになっています。

こうすれば、県、市町村どちらの担当が異動等で替わっても継続した取り組みができるのではないかと考えています。

津波対策には、これで良いといえる、いわば、王道のようなものではありません。

現在の取り組みも手探り状態のまま、進めているというのが実際のところです。

しかしながら、何もしないよりは、津波に対する安全度は少しでも向上していつているのではないかと考えます。

今後は、地域ごとに作成された津波避難計画をベースとして、国、市町村、住民、さらには、企業やNPOなどと連携して、津波対策を進めていきたいと考えています。